

令和5年度 歴史・文化探訪の会（報告）

拝啓 梅雨の候、皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、先日5月20日（土）に実施しました第34回探訪会「碧南寺町巡りとたんトピア見学」並びに令和5年度総会について、ご報告をさせていただきます。

当日は天候も良く穏やかな探訪会日和となりました。探訪会を振り返ってみます。

10時00分頃名鉄碧南駅に参加者13名が集合、ボランティアガイドの「大浜てらまち案内人」の紹介の後、二グループに分かれ、時差を付け出発、探訪会を開始した。

まず駅から南進し、幸運を呼ぶ白蛇伝説のある大浜弁財天を見学した。その後、西に向かい西方寺の前の通りを南進し、徳川家康一行が本能寺の変の後伊賀越えをし、上陸したと言われる大浜稲荷社を見学した。当時はこのあたりまで海であったと言う。今は前が運河になっている。

その後、バロトルの碑が残る旧大浜警察署の建物の前を通り、清浄院を見学した。本尊阿弥陀如来座像には胎内仏がおさめられており、さらに、金比羅さんが奉られ、海の安全と豊漁を見守っていると言う。その後、大浜らしい雰囲気に残る路地を通り、妻薬師・六角堂・十王堂を見て、称名寺に到着した。

ここで二班が合流したので記念撮影した。ここは三河松平家と関わりが深い檀林寺院で、家康の幼名「竹千代」は十五世一天和尚が命名したとされている。

称名寺を後に、北進し、運河沿いに歩き、旧大浜警察署に戻り、橋を渡り、金剛力士像が安置されている海徳寺、戦国大名「永井直勝」生誕の地でもある宝寿寺を見学した。ここを最後に見学を終わり、西方寺の横を通り12時頃昼食会場の九重味醂「K 庵」に到着した。ガイドの「大浜てらまち案内人」の方々とはここで別れた。昼食に先立ち総会を行い会計報告・役員が了承された。昼食に移り味醂料理等を味わいながら歓談の時間を持った。

昼食後、中部原子力懇談会の手配によるバスに乗車、20分ほどで碧南火力発電所・たんトピアに到着、玄関で記念撮影をした後、会議室へ入った。中部原子力懇談会の方から挨拶後、事前に提出しておいた質問（大停電の原因、周波数の変動要因、アンモニア燃料導入の目途、原子力発電と事故の影響関連など）に回答する形で電力・エネルギー全般に関する講話をして頂いた。JERAは中部電力、東京電力から火力発電部門を切り離し2015年に設立された新会社で、「中部電力には火力発電所はありません」という説明が印象的であった。また、これから見学する碧南火力発電所の概要についての説明もして頂いた。

1時間ほどの講話が終わり、全員ヘルメットを着用し、先ほどのバスに乗り込み発電所見学に移った。最初に向かったタービン建屋でバスを降り、建屋内のタービン室や制御室など見学した。石炭火力としては1・2・3号機と4・5号機を合わせ総出力410万kWで国内最大、およそ愛知県の消費電力の半分を賄っていると言うことであった。再びバスに乗り車窓から、順次ボイラ-建屋、排煙脱硝装置（無害な窒素と水に分解）、排煙脱硫装置（有用な石こうとして取り出す）、高さ200mの集合煙突等を見て、貯炭場に向かった。

広大な貯炭場（約30万m²）は全体が遮風フェンスで囲われていて、バスを降りフェンス内の展望台に登り、石炭山、リクマ（石炭山から切り出しベルトコンベヤに送る）等を見学した。見学を終え、最初の玄関でヘルメットを返却し、同じバスに乗り施設を退出した。バスは碧南駅を経由し、金山駅前に18時頃到着し帰途に就いた。

施設のスケールの大きさに驚かされた見学であった。ただ、環境に配慮しているとはいえ、毎日大量のCO₂を排出しており、その元は我々が日常使用している電力であり、無駄遣いは慎まねばという思いを強く持った。

暑さに向かいます、皆様どうかお体を大切にお過ごし下さい。

